

『自然条件と人々のくらし（低い土地）』5年生

1. 本時のおおまかな流れ

①前時の学習を振り返り，本時のめあてをつかむ。

めあて「これまでの学習から、低地に住む人々にとって水とはどのようなものなのだろう。」

②低地に住む人々にとって「水」がどのようなものか考え話し合う。

③徳島市の写真を見て気付いたことを話し合う。 ④本時の学習を振り返る。

2. 授業づくりの工夫・特徴（主なもの）

○単元の学習で、低地の人にとっての「水」のマイナス面（水害）と、プラス面（対策をして、農業や観光などに生かす）の両方を押さえておく。

○子どもが「水はどのようなものか」を考え判断する中で、低地の人々が「大変さ」を「対策」で乗り越え、さらに水を「生かしている」という認識を深める展開。

(B 深く分かることにつながる判断)

○子どもたちは学習したことを根拠に「なくてはならないもの」「正義のヒーロー」「対策をすればよくなるもの」「歴史の長いヒーロー」「色々なものを教えてくれるもの」などそれぞれの言い方で表現をしていた。

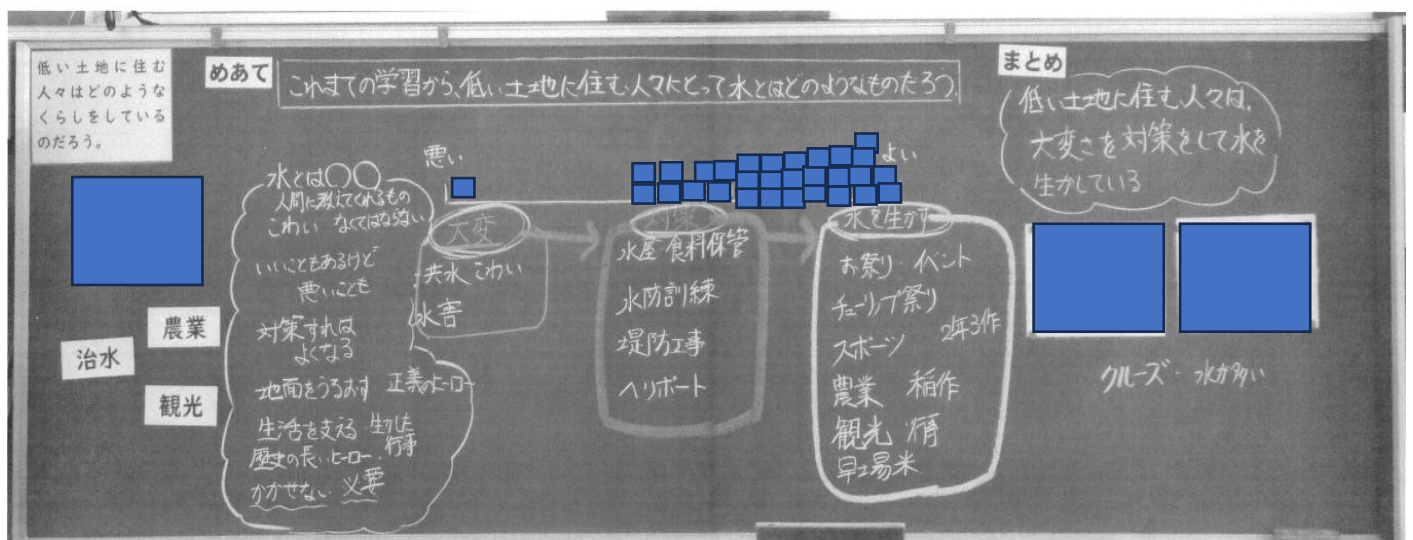
○子どもの意見を板書で「大変さ」「対策」「生かす」の3つに分類して整理。

○ネームカードで考えの立ち位置を見えるようにする。(単元の以前の時間と比べる)

→学んできて自分たちの考えが変化したことに気付く。意識のつながり。

○最後は、TV で海津市・佐原北部の写真に混ぜて徳島市の風景写真

→徳島市も似ていることに気付かせる工夫 →次時へつなぐ



3. 研究会での協議・助言内容（主なもの）

- ・日頃から、子どもが意見をつなぐ、聞く力を伸ばすトレーニングを行ってきた。
- ・子どもの意見の傾向に合わせてゆさぶったり、指名の順番を考えることが大切。
- ・根拠（資料の〇〇に書いていて）だけではなく、考え・感想も加えて発表できる
といいかもしれない。
- ・事前に考えを見取っておいて教師が子どもをつなげたり、教師も学び手となって
少数意見に賛同するなどするとよいのではないか。
- ・資料の量や調べ方を、授業の目的や子どもの実態に合わせて調整する。

『ごみはどこへ？』4年生

1. 本時のおおまかな流れ

- ①前時までの学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。
めあて「どのようにすれば正しく分別ができるか考えよう」
- ②正しく分別する方法を考える。
- ③グループで分別を調べたいごみを出し合って資料で調べる。（メタモジ）
- ④本時の学習を振り返る。（パドレット）

2. 授業づくりの工夫・特徴（主なもの）

○「どう分別したらいいかわからないときにどうすればよいか」

を考え判断する中で、調べ方の見通しをもち、実際の分別方法
を調べていく。（C見通しをもつことにつながる判断）

○グループに分かれてメタモジ上で、分別方法を調べたいごみを
どんどんデジタル付箋に貼っていく。

○グループでデジタル付箋を動かす人、調べる人に役割分担を
して（交代もOK）、協力して調べていった。

調べるのは、メタモジ上にアップした「徳島市ごみ分別ガイド」

※普段からタブレットを活用することで、子どもたちが操作に慣れて使いこなして
いた。タブレットを活用する学習経験を重ねることで、だんだん間違った
使い方（手遊び、授業に関係ないこと）も減って、学習に集中できるよう
なるとのこと。

○後半は、「もし、それでもわからない場合はどうすればよいか？」を考える。

出前授業でお世話になった市役所環境政策課の方に聞く（ただし本当にごみ出し
に困ったときだけ）という解決方法も知らせる。

○単元の毎時間、パドレットに振り返りを書きためていく。自分や友達の振り返りの
違い・変容が目に見えて、意識がつながりやすい。